

たつは、原点の位置が僅かながら異なるのであるが、よく類似したベクトルであることが分る。

予測地点のベクトル \mathbf{u} から \mathbf{x}_0 を経て、予測値が算出できる。予測値は、 y_{ijk} に相当する値、すなわち季節、昼夜別のエネルギー供給時間として出力されることが望ましい。この予測値のベクトル $\tilde{\mathbf{y}}_0$ は、

$$\tilde{\mathbf{y}}_0 = \mathbf{x}_0' \mathbf{B}' + \tilde{\mathbf{y}}'$$

で与えられる。

5.3. 模擬予測について

海岸の場合と同様、内陸においても模擬予測による予測の中率をみてモデルを選択する。このときの式 (18) の右辺は \mathbf{S} であり、 L 番目の模擬予測算出の場合に限り、式 (19) の右辺が適用できる。このときの $\mathbf{Z}_*'\mathbf{Z}_*$ は L 次、 $\mathbf{Z}_a'\mathbf{Z}_a$ は $(L-1)$ 次の行列となる。一般には、 i 番目の地点の模擬予測の場合、 $\mathbf{Z}_*'\mathbf{Z}_*$ における第 i 行、 i 列を除外し、残る行列が式 (19) の $\mathbf{Z}_a'\mathbf{Z}_a$ に、除外した列が $\mathbf{Z}_a'\mathbf{z}_0$ と $\mathbf{z}_0'\mathbf{z}_0$ (i 番目の要素) に、それ

ぞれ相当する。さらに行列 \mathbf{Y} の第 i 列も除外するため、残りの行列の平均値は、僅かながらゼロではない。このための補正が、模擬予測の過程では必要となる。

次報で、具体的な予測モデルとそれによる模擬予測の結果を示す。

文 献

- 橋口渉子, 1983: 農業利用における小規模風エネルギーのメッシュデータによる評価方法の研究, 第2報 地形分類メッシュデータによる多次元解析法, 天気, 30, 376-384.
- 林知己夫, 1974: 数量化の方法, 東洋経済新報社, 7.
- Kruskal, J.B. and M. Wish, 高根芳雄訳, 1978, 1980 訳: 多次元尺度法, 朝倉書店, 2.
- 奥野忠一ほか, 1978: 応用統計ハンドブック, 養賢堂, 146, 328.
- 斎藤堯幸, 1980: 多次元尺度構成法, 朝倉書店, 2, 8.

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第7回極域気水圏シンポジウム	昭和59年12月4日～6日	国立極地研究所	国立極地研究所
第8回風工学シンポジウム	昭和59年12月6日～7日	日本風工学会ほか	気象庁講堂
第31回風に関するシンポジウム	昭和59年12月20日	日本農業気象学会ほか	農林水産省農業環境技術研究所大会議室
First WMO Workshop on the Diagnosis and Prediction of Monthly and Seasonal Atmospheric Variations over the Globe	1985年7月29日～8月2日	WMO	メリーランド大学(米国)
IAMAP/IAPSO 1985年 ハワイ合同研究集会	1985年8月5日～16日		ハワイ州ホノルル
第23回国際地震学・地球内部物理学協会 (IASPEI) 総会	昭和60年8月19日～30日	地震学会ほか	京王プラザホテル